

いじめのない まちづくりのために

- その2 -



前号の花田祥代さんの人権作文『いじめのスパイラル』の続きを紹介いたします。

先生も家に来て話を聞いて下さいました。たくさんの方が私の話を聞いてくれ、言葉をかけて下さいました。真つ暗だった私の心は少しずつ明るさを取り戻していききました。

その後、部活の一年生は全員図書室に集められ、一人ずつ別の部屋で先生と一对一の話し合いが行われました。そして私も呼ばれ、先生と話しました。そこで私は驚くべきことを知りま

した。ある子が小学生の頃私に嫌なことを言われ、とても傷ついたそうです。それが今回のいじめにつながったと泣きながら話してくれたというのです。私はそのことを全く覚えていませんでした。「傷つけた方は覚えていなくても傷つけられた方はいつまでも心の傷は残る」まさに私たちのことだと思いました。私はその子に申し訳ない気持ちで一杯になりました。

全員の保護者も交えての話し合いの後、私へのいじめはなくなり、少しずつ前の仲のよい関係に戻っていききました。私が傷つけたあの子とは、互いに泣きながら謝り、今では心から信頼し合える関係になっていきます。

あのときはとても辛く苦しかったのですが、私はこの体験を通してたくさんのお話を学びました。その中でも二つのことが特に心に残っています。

一つ目はいじめられた人の気持ちです。いじめている人はいじめられている人の気持ちをわかっていません。(一部省略) せっかく辛い思いをして学んだことなのでそれを生かそうと思いました。それから私は一人ぼ

っちの子がいたら話しかけたり、相談に乗ったりするよう心がけています。また、いつも相手の気持ちを考えるよう努力しています。

二つ目は自分ではなくさんの人に支えられているということでした。あの頃の私は両親や先生、先輩やクラスの友達が支えてくれたおかげで、いじめという壁を乗り越えることができました。今があるのはみんなのおかげだと感謝しています。人は一人では生きていけない、支え合いながら生きていくのだと実感しました。今度は私が誰かを支えていけたらと思っています。

ふと目を開けると母は微笑みながら私を見つめていました。そして、「でも、さっちゃんはそのおかげで強くなった。」と言いました。私は母の言葉に「うん。」と力強くうなずきました。私はもう偽りの笑顔や元気なふりはしません。まっすぐ前を向いて生きていきます。

参考・引用文献

「アイユ」2012年5月号

(財)人権教育啓発推進センター発行

教育問題シンポジウム

【日時】8月24日(金) 午後1時30分から

【場所】市ミリカホール(大ホール)

【テーマ】『災害から子どもを守るために』

—防災教育の在り方について—

・基調講演(午後1時40分から)

講師：鳴門教育大学 阪根健二教授

・シンポジウム(午後2時40分から)

シンポジスト：市内小・中学校から

被災地へ派遣された教員

【お問い合わせ先】

市教育委員会学校課(教育庁舎2階)

TEL 32・3811 / FAX 33・3540

土曜
開催

第2回人権教育学級

『子どもたちに幸あれ』を演題にした人権音楽劇を開催します。どなたでも参加できますので、みなさま是非ご来場ください。

【日時】8月11日(土) 午後2時から午後4時まで
(午後1時30分より受付開始)

【場所】市ミリカホール

【講師】人権音楽劇団ひまわり

代表 元木謙一さん

※当日、要約筆記を準備しています。

※授乳・育児にご利用できる部屋もあります。

【お問い合わせ先】

市人権推進課(教育庁舎1階)

TEL 32・3814 / FAX 33・3525